

注

- 1) 1 平方マイル (square mile) は約 2.59 km^2 である。
- 2) これらの研究成果は東南アジア研究28-3, 1990, 177頁を参照されたい。
- 3) ベンガル低地の地形変化についてはUmistu (1985, pp.149-164) を参照されたい。それは自然堤防の形態とその分布状態から自然堤防の形成及びベンガル低地の発達過程を明らかにしたものである。また、バングラデシュの自然環境と自然災害(特に水害)の関連については海津(1989, 56-63頁)やカーン(1990, 52-63頁)が明らかにしている。そのなかで、カーンは災害軽減と農村開発プロジェクトを実行するためにも日本の財政的・技術的援助の必要を述べている。
- 4) バングラデシュの首都ダッカ(Dhaka)では4月の平均気温が 30°C 程度、12月-1月が 20°C 前後である。
- 5) 1970年11月のサイクロン災害についてはJohnson (1982, pp.33-35), 1991年4月のものは海津(1991, 71-78頁)を参照されたい。
- 6) アウス稲, アモン稲, ボロ稲は農耕期によって分類される品種群である。Komoguchiはアモン稲を直播き(Aman-1)と移植(Aman-2)に, ボロ稲を低地に卓越する伝統的な自然灌漑によるもの(Boro-1)と人工灌漑によるもの(Boro-2)に分類し, サウス・ランプール村(1988, pp.81-103), ポラーシュ村(1989, pp.113-132), チャンディプール村(1990, pp.149-170)を事例として, 厳密な調査に基づく詳細な研究を行っている。
- 7) 1 マイル (mile) は約 1.61 km である。
- 8) 1 エーカー (acre) は約 0.40 ヘクタールである。
- 9) シルコール村の七つのパラの規模は, プチムパラ135世帯,

ドッキンパラ72世帯，アコンダパラ27世帯，モンドルパラ20世帯，ウットゥルパラ33世帯，テトゥリアパラ74世帯（うち57世帯はナラハッタの領域に含まれる），モンナパラ24世帯（うち22世帯はナラハッタの領域に含まれる）である。そして，ビビール・プクールに1世帯が位置する。

- 10) シルコールの東端，シルコールマドラシャの南東にはナラハッタ村の農民が所有する手動のポンプが1基設置されている。乾季にはこのポンプによってその周辺の0.50エーカーの野菜畑が灌漑された。これは居住地内に設置されている飲料水用のものと同種である。ここでは動力による揚水機を設置した管井戸を灌漑用井戸とみなし，手動の場合は浅管井戸から除いた。
- 11) この73%は，全耕地面積（444.39エーカー）に対する人工灌漑によるボロ稲の栽培面積（322.44エーカー）の割合である。動力による灌漑用水は，コルラやたまねぎなどの野菜畑にも利用されている。
- 12) Komoguchiの示した三村での耕地利用率の変化は，次の通りであった。

| | 第1農耕期 | 第2農耕期 | 第3農耕期 |
|---|-------|-------|-------|
| ① サウス・ランプール村 (Komoguchi 1988, p.85, p.95) | | | |
| 1967-68年 | 96% | 96% | 51% |
| 1984-85年 | 1% | 96% | 100% |
| ② ポラーシュ村 (Komoguchi 1989, p.115, p.122) | | | |
| 1968-69年 | 87% | 80% | 28% |
| 1984-85年 | 62% | 70% | 75% |
| ③ チャンディプール村 (Komoguchi 1990 p.157, p.159) | | | |
| 1968-69年 | 81% | 90% | 17% |
| 1984-85年 | 96% | 94% | 62% |
| ④ シルコール村 | | | |
| 1984-85年 | 22% | 83% | 90% |

- 13) 隣接する7村はバトイ (Bathai #6)，ロハラパラ (Lahara-

para #7), アイラ (Ayra #8), マドバカ (Madhabbanka #46),
ロハジャル (Lohajal #49), ナラハッタ (Narhatta #47),
ニッチンダチャンダニ (Nischintachhadandni #51) である (第
4 図および第 1 表参照)。

14) 高位耕地の土地価格も高く, 1985年頃は1エーカー当り60,000
00~65,000タカで売買されていた。その他の低位耕地は50,000
~60,000タカ程度であった。

15) 1984-85年におけるバングラデシュの人口増加率は年率2.17
%であった (BBS 1985, p.4)。

16) ボルガとチュクティ・ボルガは分益小作であり, Komoguchi
(1986) が示した南インドの事例では, 「バラーム (varam)」
と呼ばれる制度である。また, ション・ポットンとポットンは
現金定額小作で, 「クッタハイ (kuttagai)」, ボンドックと
カイカラシは抵当ないし信用小作で, 「オッティ (otti)」と
呼ばれる制度に相当する。

17) ここではバングラデシュの公的な資料に準じて土地所有の規
模によって世帯を土地なし層, 小土地所有世帯 (所有規模2.50
エーカー未満), 中土地所有世帯 (所有規模2.50エーカー以上
7.50エーカー未満), 大土地所有世帯 (所有規模7.50エーカー
以上) に区分している。